



会員寄稿

IT技術でモノづくりの担い手を



瀧田 登子さん

大学卒業後、インターネット技術に仕事として携わって30年以上が経っています。この10年でインターネットは急激に普及し、使い方も多様化してきました。初期にはパソコンでの情報検索が中心でしたが、スマートフォンやタブレットが登場し、買い物や動画も楽しめるようになりました。今では、家電製品から健康器具、車まで様々なものがインターネットに繋がっており、スマートフォンや、電気ポットを介した一人暮らしの高齢者等の見守りなど、暮らしを支えるサービスが次々と生まれています。これが注目されているモノのインターネット

ネット（IoT）と言うもので、繋がった先のデータを分析するのが人工知能（AI）なのです。これらの技術は生活を便利にするだけでなく、私たちの仕事を含め社会のあらゆる分野に影響を与える第4次産業革命とも言われ、実用化に向けた研究が急ピッチで行われています。一方でこの状況を担うIT技術者の不足が深刻化しています。単にハードウェア設計やソフトウェア開発が得意なだけでなく、幅広い知識が求められるため、施策として、できるだけ若いころからこのようなウオッチに触れる機会を持つてもらいたいと考えています。2017年から総務省事業の一環として「Web IoTメイカースチャレンジ」というイベントが始まりました。初年度は全国



「Web IoTメイカースチャレンジ 2018-19 in 鳥取」鳥取大学キャンパスにて

5か所、昨年度は9か所で開催され、学生や若手の皆さんが多数参加してモノづくりに挑戦しています。鳥取も当初から開催地の一つとなり、私も運営をお手伝いさせていたのですが、今年3回目の実施も決まりました。2回の週末を使って、プログラミングや情報通信の基礎、電子工作を学び、チームに分かれてアイデアを出し合っている作品を作り上げます。実際に取り組みを体験したいとき、技術者でなくてもモノがインターネットにつながる時代に貢献できる人材を一人でも多く育ててほしいと思っています。詳細は <https://webiotmakers.github.io/> をご覧ください。瀧田 登子（一般社団法人 WebIoT Japan 代表理事・昭和57年卒）

史跡巡り 落合散歩



池田研二様ご夫妻とともに

昨年9月1日の第15回史跡巡りには、一中（昭和23年卒）の岩田陽先輩をはじめ19人が参加した。「落合南長崎駅」から池田龍馬邸へ。ご息子・研二様（82）から説明が、龍馬は日野郡日南町出身、東大教授、源氏物語で朝日賞を受賞した碩学だ。次は漫画の聖地「トキワ荘通り」へ。私の兄・英男（昭和33年卒）は手塚治虫の弟子で赤塚不二夫や藤子不二雄の友人。隠されたエピソードの披露に一同大笑い。その後はかつての「白山文化村」へ。石橋湛山邸を望む。湛山と元日商會頭・足立正三（境港出身）は孫同士が夫婦の仲。山手通りを横断して倉々「落合」へ。路地の大通り、通りに「佐伯恒」テトリエが、大正15年

編集後記

4月に帰省したとき、硬式野球部の元監督・井上博志さんとお話しする機会があった。「東京で採られたモノらあが帰って来ると、鳥取は変わらんよ」と熱く語りかけられました。野球部に限った話ではなく、寂れゆく街の起死回生を願う。鳥城会会員への期待を感じました。（山根）

会報の編集を拜命し、卒業以来、初めて母校に関わるお仕事をしました。と言いたいところですが、実際は、一つの頼もしい先輩が仕事をこなし、その後ろをヨチヨチついていっただけです。頼もしい存在」と気付けられた、50半ばの私でした。（山本）

鳥城會會報

変わりゆく母校の風景

校舎正面に擬宝珠橋が完成



完成した擬宝珠橋

鳥取市が進めている国史跡「鳥取城跡」のメインルート「大手登城路」の復元工事で、擬宝珠橋（ぎぼしぼし）が昨年9月末に完成、開放されている。創建当時の（江戸初期）の姿を蘇らせた長さ約37

メートル、幅6メートルの橋が、母校の景観と新しい調和を見せている。鳥取城は戦国時代「日本にかけぬき名山」に築かれた山城と知られた。しかし、今日残る山麓の城跡の姿は、徳川幕府の権力が確立した1615年の宝珠橋がその威容を以て、姫路城の大手守を築いた池田輝政が鳥取に移る32万石（国内12番目の石高）として整備して居た。昨年秋に完成したの

発行 鳥城会事務局 03(62267)4550  
制作 (有) august design 03(4405)6258

たものである。鳥取城が姫路城の弟城と称される由縁でもある。この時、幕府の規制により、それ以前に整備された米子城、松江城の大手のようになり、4階建て以上の建物を建築できなくなったが、二ノ丸には江戸城の富士丸櫓を凌ぐ規模の三階櫓が聳え、姫路城や内堀には、国内最長クラスの本造橋、擬宝珠橋がその威容を誇った。

鳥取市では、これら象徴的な建造物群の復元を構想し、現在、江戸時代申請から鳥取藩の政庁である三ノ丸へ至る大手登城路の復元を、2020年代中頃の完成を目指して進めている。このうち、昨年秋に完成したのが、擬宝珠橋である。かつて、現在、母校の校舎が建ち並ぶ三ノ丸には、日本の行く末に大きな功績を残した名が住まいであった。例えば、幕末の名君として著名な薩摩藩主・島津斉彬、佐賀藩主・鍋島直正の母方の祖父で、「日本近代化の父」（NHK大河ドラマ「NHK大河ドラマ」）「せごどん」時代考証・原口泉とも称される池田重忠鳥取池田家6代）が住んでいた。また、藩校高徳館での教育を拡大し、薩摩や長州が技術提供を求めた、反射炉（大砲製造施設）を建設した池田慶徳（同12代）は、真の明治維新の立役者の一人とされる。現在、鳥取市が取り組む復元は、母校との共存を前提とされている。復元完成する大手登城路のおかげで、後輩たちは通学時、鳥取城の威容

今年度総会は10月26日

講演は漫画家 篠田英男さん

令和元年の鳥城会総会は、10月26日（土）12時半から、例年通りアルカディア市谷で開催します。今年度は昭和33年に鳥取西高を卒業された、漫画家の篠田英男（しのだ・ひでお）さんに講演をお願いしました。篠田さんは鳥取西高卒業後、昭和33年に上京し、19歳の時に手塚治虫氏のアシスタントとなり、20歳で独立し漫画家としてデビューされました。藤子不二雄作品の多くの作画に携わりました。「コロコロコミック」、小学館の学年誌、「科学と学習」に作品が掲載され、児童漫画の領域で広く活躍されました。また1985年のわかとて国体のマスコットキャラクターのデザ



篠田さんの自画像

インを手掛けられ、鳥取県とも深い縁をお持ちです。漫画という特別な世界で研鑽を積まれ、多岐にわたる出会いと経験を重ねられた篠田さんの講演は、今日、日本の堂々たる文化、一大産業として世界へ力強く羽ばたいています。その漫画文化の醸成の一役を担った篠田さんは、大学教授という経歴も持ち、人作りでも力

を肌で感じることで、前述した佐葉が示すとおり、とりわけ鳥取城三丸という地が、我が国の歴史に強い影響を与え、地である。立ちつぐたいと願っている。

細田隆博（鳥取市教育委員会文化財課・平成11年卒）





# 総会報告

関東地区の同窓会である鳥城会総会が、平成30年10月6日に来賓を含め99名の参加をいただき、都内千代田区のフルカデリア市ヶ谷にて盛大に開催されました。

総会では吉田政雄会長（昭和42年卒）の進行による活動報告、会計報告に続き、次年度予算案が承認されました。講演会



吉田会長による総会報告

## 講演報告

### 挑戦の歴史を語る

「感謝と挑戦」をスローガンに、常に目標を掲げ挑んでいる、株式会社リング、代表取締役社長、吉田政雄氏による講演。鳥城会西高卒業生、



講演する米濱和英さん

きました。懇親会の中盤では昨年の講演者である岡島礼奈さん（株式会社ALIE代表取締役社長／平成9年卒）から人工流星計画の進捗状況が報告され、終盤では報告者、越谷重友さん（昭和31年卒）が乾杯の音声を発し、宴の幕が開

諸先輩を紹介し、最後中盤では昨年の講演者である服部正さん（株式会社ALIE代表取締役社長／平成9年卒）から人工流星計画の進捗状況が報告され、終盤では報告者、越谷重友さん（昭和31年卒）が乾杯の音声を発し、宴の幕が開

いしぎの提供により、顧客を取り戻すは海外店舗の黒字化と1000店舗を目指して奮闘中、「ねばりっこ」など鳥取産食材の利用なども、米食さんの郷土愛にも感謝を受けました。山崎千佳子（昭和57年卒）

副会長 小島憲道

## 父が作曲した鳥城西高校歌

特別寄稿 服部正WEB資料館館長 服部賢



作曲家・服部正さん

鳥城設立鳥城西高等学校の校歌が制定されたのは1951年でした。そのころは戦後復興真っ最中の時期でした。戦後復興に向けた活動の中でも「音楽」という面からみると、日本国民のモチベーション向上に一役買ったのが「体操作業、放送番組音楽」一学校の校歌、企業の社歌制定で「学校」の校歌制定です。現在の「ラジオ体操第一」は奇しくも鳥城西高校歌と同じ1951年に作曲され、ようやく国民の意識が前向きに戻りつつある中で当時の通信省、文部省がこのラジオ体操を再開させたのです。この70年近く受け継がれている2つの

曲を作曲したのが、わが父服部正です。服部正は明治41年（1908年）に東京の神田で生まれました。ごく普通のテニス好きの少年でした。当時の高校で「慶應義塾マンドリンクラブ」に入ってから音楽に目覚め、一旦は父の勤務先の関係会社に入社しては非常に珍しい一般大学出身のクラシック音楽家になりました。しかしその頃音楽を専攻してはいるが、自分も作曲、編曲をさせられたりして大変苦労

になったのです。後ベビーブームの供給が学校に通い始める頃で、全国的に小中高学校の再編成等もあり校歌制定のブームともなりました。そんな中で「明るく、楽しく、分りやすい」作曲家として服部正に求められていた。現在残されている譜面だけでも学校で100校近く、企業で200社以上の校歌、社歌やCMソング等を作曲して参りました。服部正は明治、大正、昭和を経て平成20年（2008年）の8月に100歳という長寿にて他界致しましたが、一生を

音楽で明け暮れた幸せな人生でした。服部正WEB資料館のホームページに様々な情報を掲載しておりますので、ぜひご覧頂ければ幸いです。校歌というのは、無形資産です。校舎等当時の姿として永遠に残るべきものも、卒業生の皆さんの心の中にとけ込んでしまわれていくものも、校歌は両方集まる時に、初対面の人たちでもこの校歌が「繋がり」を演出できる役目を担っております。そういった意味でも長く校歌をこ愛唱している鳥城西高の卒業生の皆様「愛校心の醸成」のお役に立てているのであれば、作曲家の遺族として大変光栄を喜びたいと考えています。海外から打ち上げる予定のご予定のことです。来年5月には瀬戸内の60kmから80km上空

こんな流れ星が見える！（株式会社ALIE提供イメージ）

## 流れ星プロジェクト近況報告

「流れ星プロジェクト」は、人工流流星に世界で初めて挑戦したい。人工流流星の素となる「粒」が大気圏で発光する様子には、鳥城西高の先生方も驚かれています。今年度の総会でも、この会報でも現状をご報告いたします。昨年12月、人工流星1号機が完成。イブシロンロケット4号機に搭載され、今年1月18日に鹿児島・内之浦から打ち上げられました。現在、人工流流星は順調に地球を周回中です。この夏以降、2号機も海外から打ち上げる予定のご予定のことです。来年5月には瀬戸内の60kmから80km上空

小島副会長 小島憲道



こんな流れ星が見える！（株式会社ALIE提供イメージ）

